

第2期戦略の総括及び第3期戦略の策定に向けて

資料5

1. 第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について

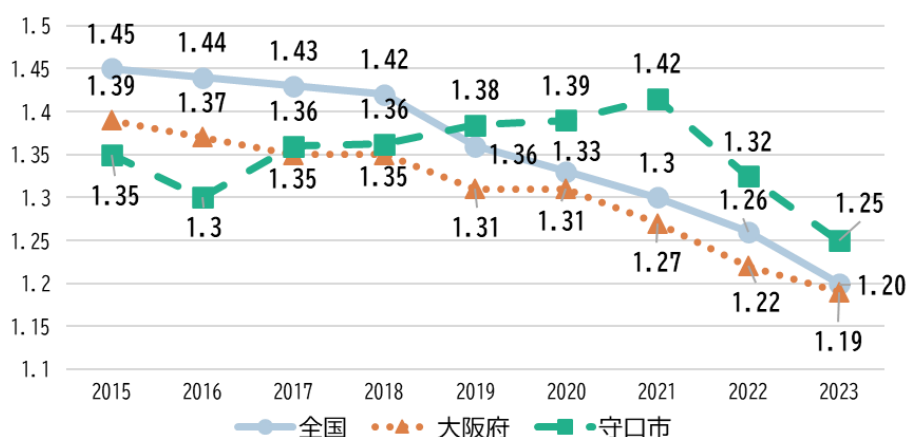
(1) 基本目標の数値目標の推移

基本目標1 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

理想とする数の子どもをもち、協力して子どもを育てている家族が増えていることをめざします。

数値目標：合計特殊出生率1.37（2018）→1.51（2023）→1.71（2030）

達成状況→令和3年まで増加傾向が続き1.42まで上昇したが、2023年は1.25まで減少。



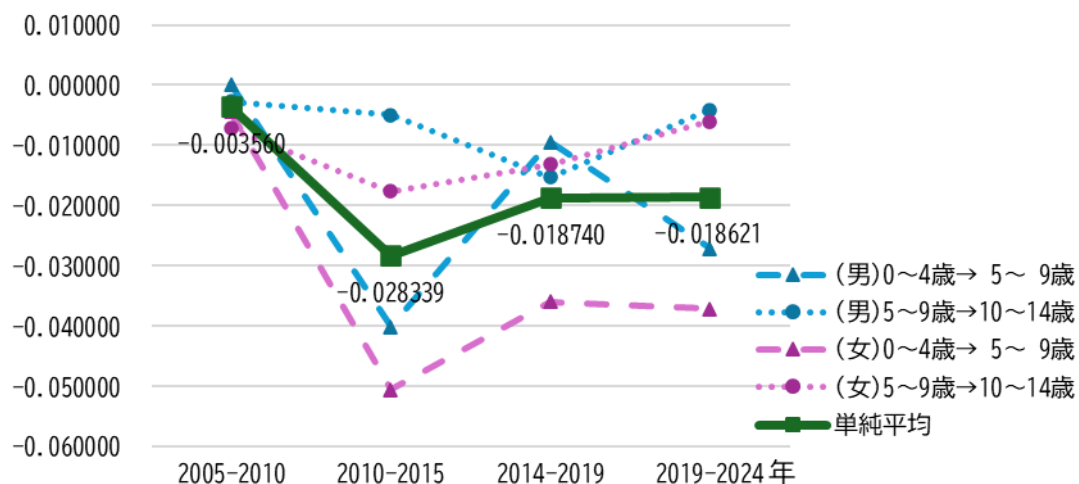
基本目標2 若い世代に守口の「まちの魅力」を広く伝える

守口の暮らし環境に魅力を感じ、「私たちらしい暮らしや子育てができるのでは」と期待して、守口で新しい生活を始める子育てファミリー世帯が増えることをめざします。

数値目標：0～9歳の純移動率※
-0.018740（2014→2019）→0（＝転入出均衡）（2019→2024）

達成状況→ 0～9歳の純移動率は横ばい傾向で、転出入均衡には至っていない。

※上記の0～9歳の純移動率は、0～4歳・5～9歳の男性・女性の純移動率の平均値



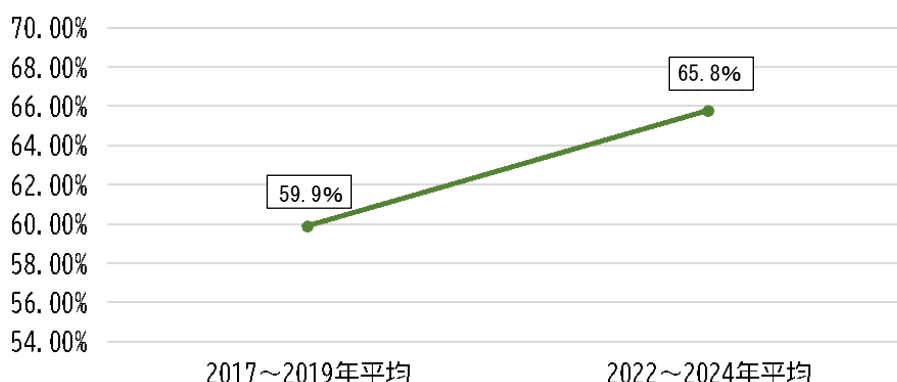
基本目標3 子育てファミリー世帯の守口定住を促す

子どもと楽しく守口で暮らしていく中で、この先さらに守口が良くなっていくことへの期待が高まり、仲間とのつながりも深まっていくことで、子どもの成長に応じて住み替える時にも、再び守口を選び、守口で子育てを続けたいと思う家族が増えることをめざします。

数値目標：引越した5歳児のうち、市内転居した割合※
59.9%（2017～2019年平均）→70%（2022～2024年平均）

達成状況→2017-2019年平均からは上昇するも、目標の70%には達していない

※市内転居した割合＝市内転居した5歳児/（市内転居した5歳児＋大阪通勤圏に転出した5歳児）

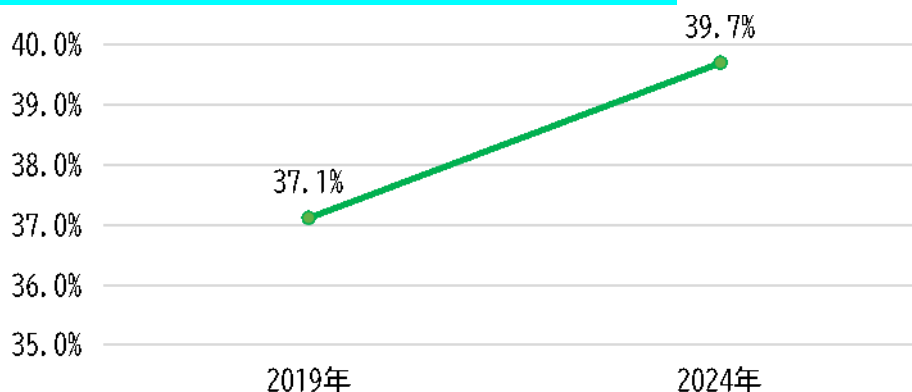


基本目標4 良いイメージをもって守口を誇りに思う子どもを増やし、育てる

たくさんの思い出ができた、友達や将来の夢と出会えたなど、「守口で育ってよかった」、「将来再び守口に住みたい」、「守口で子育てをしたい」と思う若者が増えることをめざします。

数値目標：「将来守口市に住みたい」と思う若年者の割合
37.1%（2019）→50%（2024）

達成状況→2019年に比べて2.6ポイントの上昇に留まる。



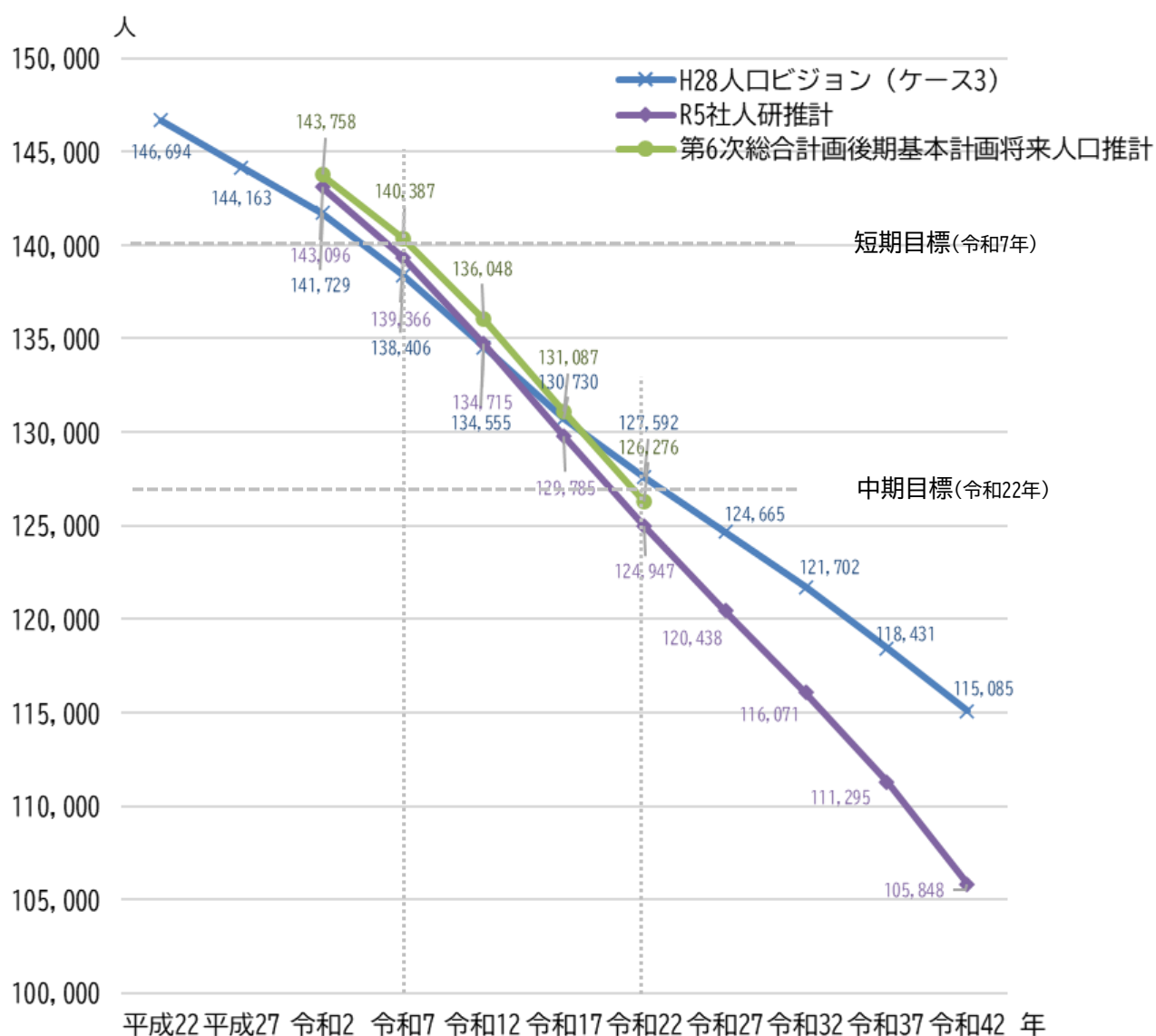
（資料）総計若者アンケート（R1／R6）

※今の場所に住み続けたい（15.1%／17.6%＋今の場所とは限らないが守口市内で住み続けたい（14.1%／13.2%）＋一度は守口市外に住むかもしれないが、いずれは守口市内で住み続けたい（7.9%／8.8%）＝（37.1%／39.7%）

(2) 人口の推移

- ・令和7年6月1日の人口は140,846人です。現在の守口市人口ビジョン（令和3年3月改定版）の短期目標（令和7年）の14.0万人に、近い値で推移しています。
- ・人口ビジョンを策定後の平成28年6月1日の人口は144,358人で、9年間で3,512人減少しています。
- ・第6次総合計画後期基本計画での将来人口推計報告書によると、令和22年の人口の見通しは126,276人で、人口ビジョン中期目標の12.7万人よりも、約700人減少する見込みです。

現在の人口ビジョンの人口見通しと、6次総計後期基本計画での人口の見通し

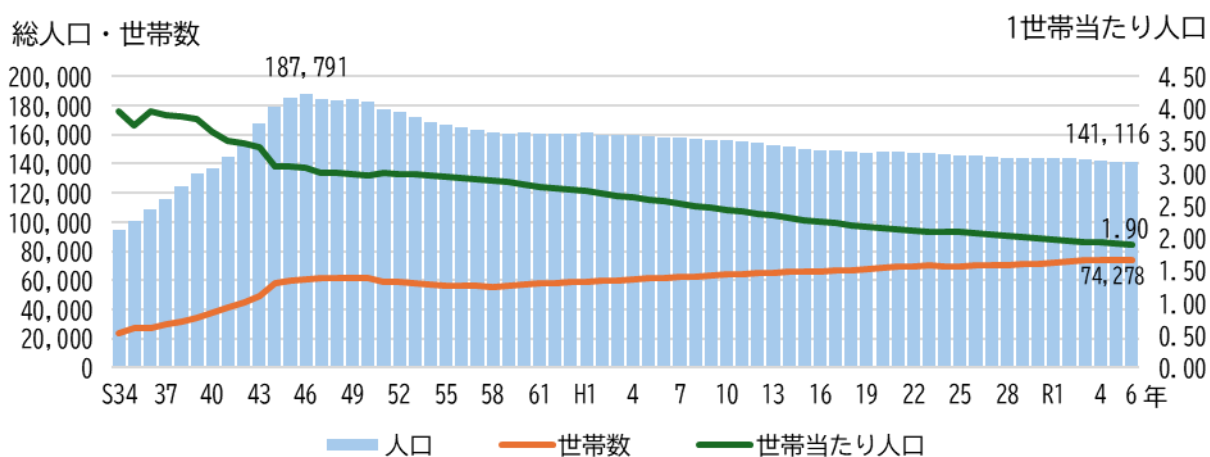


(3) 関連する人口データ

①人口・世帯数

○人口は減少傾向にあるが、世帯数は増えている。世帯当たり人口は減少している。

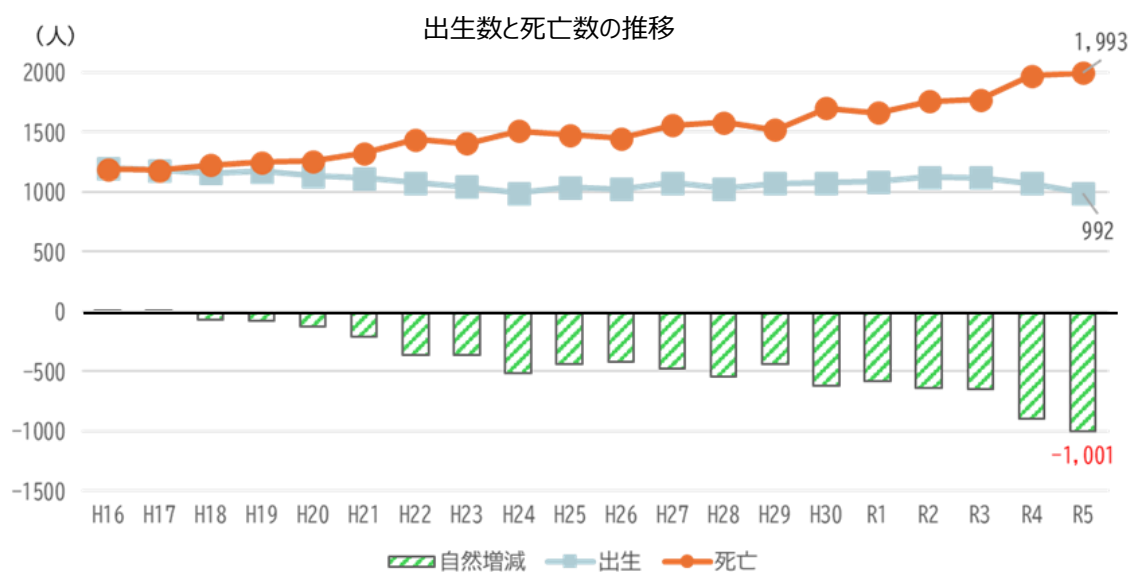
人口・世帯数の推移



(注) 住民基本台帳人口（各年 10 月 1 日現在）
(資料) 守口市「守口市統計書」

②自然動態（出生数－死亡数）

○平成17年以降、死亡数が出生数を上回る「自然減」が続き、近年は死亡数が増しているにも関わらず出生数が横ばいであることから、自然減少は加速している。

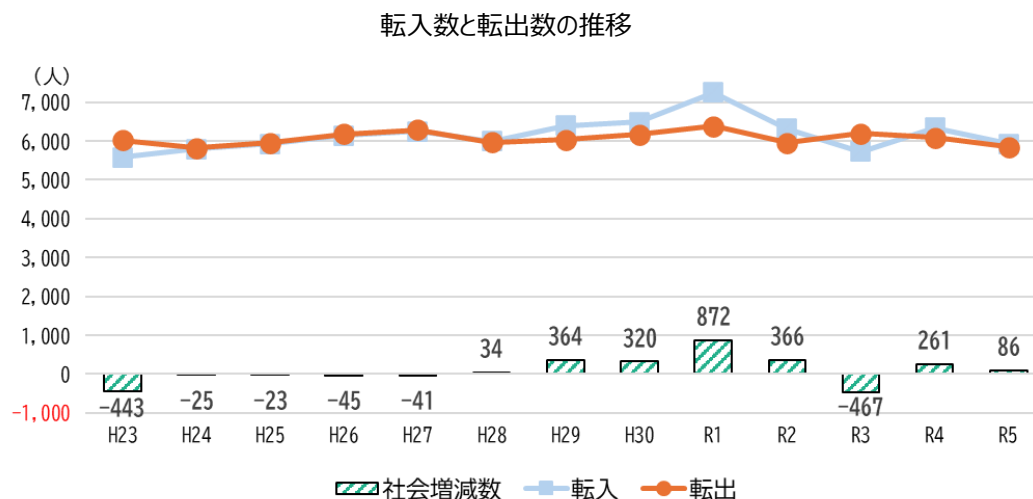


(注) H16～H25 までは年度、以降は年

(資料) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

③社会動態（転入者－転出者）

○平成23年以降、転出数が転入数を上回っていたが、平成28年以降は転入数が転出数を上回る年が多くなっている。

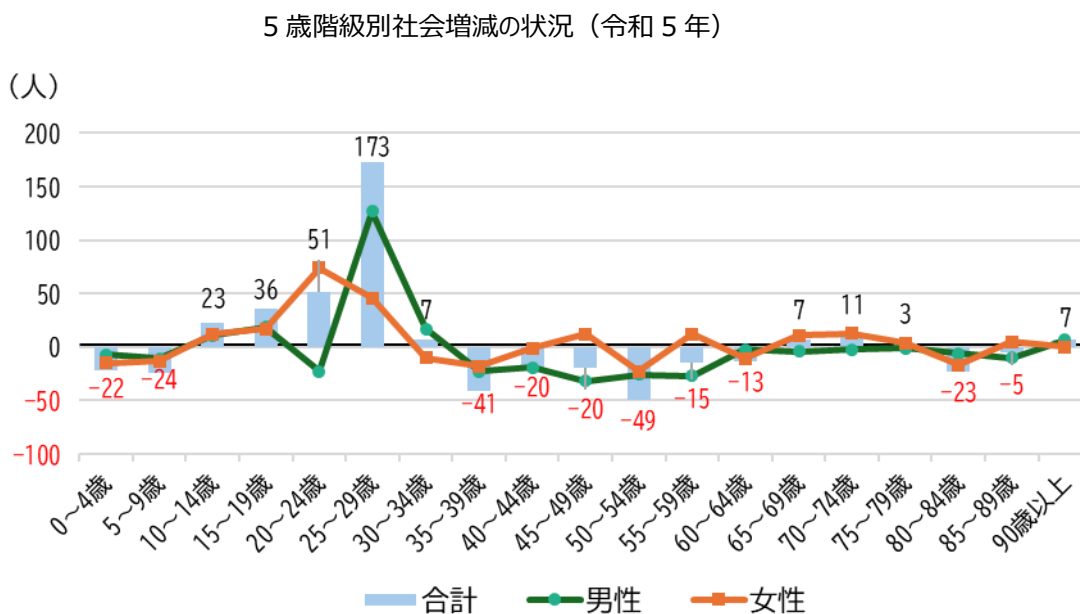


（注）転入数には転出取消・帰化を含まない。転出数には職権削除・国籍喪失を含まない。

（資料）守口市「守口市統計書」

○令和5年の5歳階級別の社会増減数（転入数－転出数）を男女別にみると、大きな転入超過がみられる「20～24歳」が、男性は転出超過だが女性の転入超過数が多く50人を超える。「25～29歳」が男女とも転入超過で170人を超える。

○一方で、35～64歳では転出が超過している。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

○平成27年から令和2年にかけて、守口市全体では1,703人の転入超過となっている。近隣都市では、大阪市は718人、寝屋川市は59人となっている。転出超過は門真市のみである。

5年前の常住地から見た転出入先の内訳（R2）

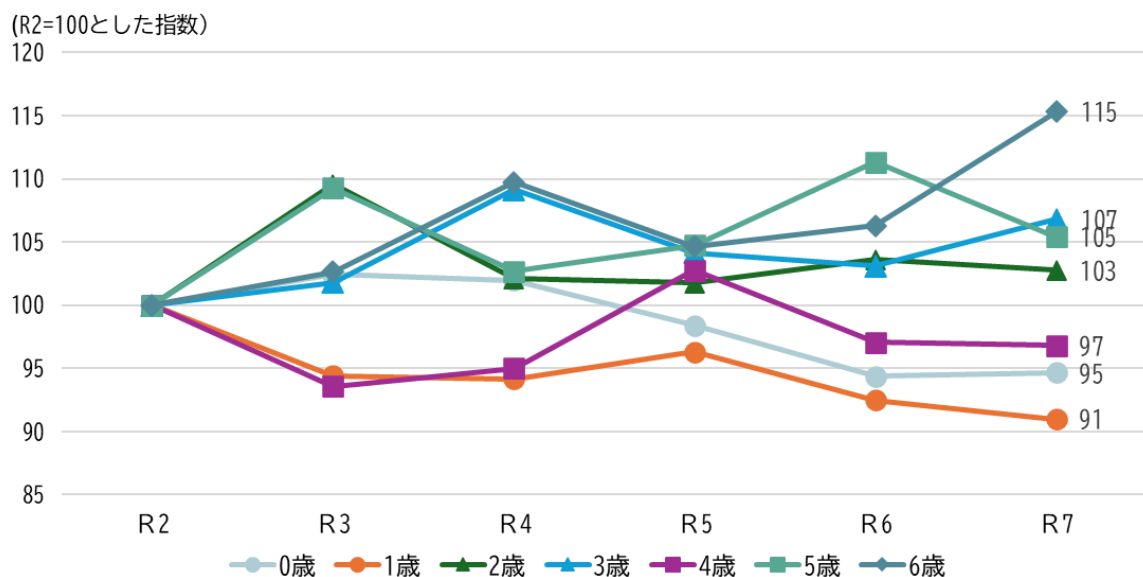
	守口市への転入者数	守口市からの転出者数	転入者数-転出者数
市外合計	19,124	17,421	1,703
大阪市	4,931	4,213	718
門真市	1,852	1,863	-11
寝屋川市	1,225	1,166	59
枚方市	727	700	27
東大阪市	399	378	21
その他大阪府内	3,098	2,774	324
大阪府外	6,892	6,327	565

（資料）総務省「国勢調査」

④子育て世帯に該当する年代の人口動向

○令和2年以降の0～6歳の人口推移をみると、2、3、5、6歳は増加しており、それ以外の歳は減少している。

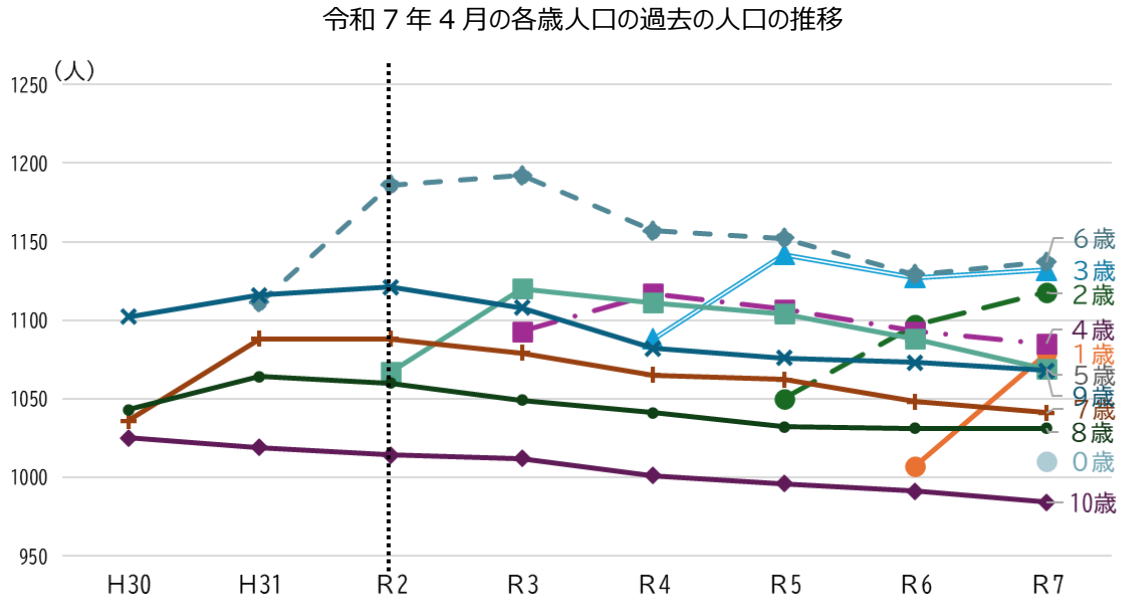
各歳別人口（0～6歳）の推移



（注）各年4月1日現在の住民基本台帳人口

（資料）守口市ホームページ（年齢別男女別人口）

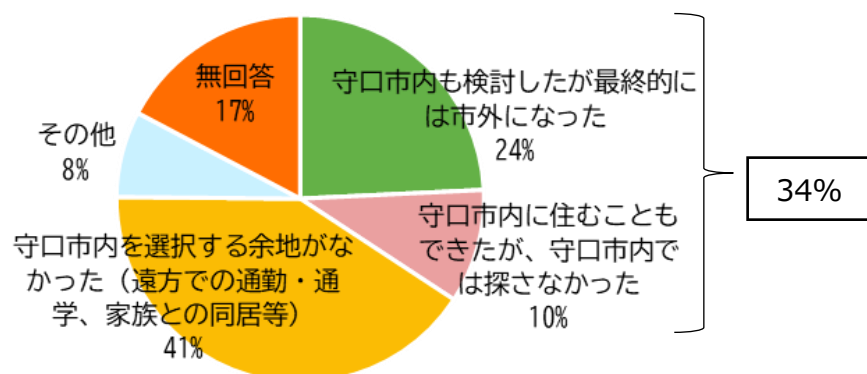
○令和 7 年 4 月の各歳人口について、1 年前、2 年前等の人口を折れ線グラフにした。転出入がプラスマイナスゼロであれば、グラフは概ね水平の形状となる。6～10 歳は R2.4 時と、5 歳以下は 0 歳時の人口と比較すると、4、6～10 歳は転出超過、それ以外は転入超過がおこっている。



(注) 各年 4 月 1 日現在の住民基本台帳人口
(資料) 守口市ホームページ (年齢別男女別人口)

○転出者が引っ越し先をどのように検討したかについては、「守口市内も検討したが最終的には市外になった」が 24%、「守口市内に住むこともできたが、守口市内では探さなかった」が 10% となっており、転出者の 34% が守口市に住み続けることもできたが、転出先として守口市を選ばなかった。

図表－1 引っ越し先をどのように検討したか (n=45)



(資料) 守口市「守口市魅力に関するアンケート調査結果報告」

(4) これまでの取組例

総合戦略に掲げる基本目標	これまでの取組例
基本目標 1 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる	・こども家庭センターを設置し、妊娠期から子育て期までの総合的な相談・支援を実施。 ・令和4年1月からこども医療費助成の対象年齢を0歳から18歳（高校卒業）まで拡充。 ・地域子育て支援拠点施設を開設し、子育て親子の交流の場を提供するとともに、特色あるイベントや講座等を実施。 ・ことりっぷ（観光ガイド）を作成し、広く配布することで、市の観光資源の情報を発信。また、ホームページのリニューアルとともに、新たに魅力発信サイトを開設。さらに、InstagramフォトコンテストやYouTubeショート動画などの発信も行い、市の魅力スポットを周知した。
基本目標 2 若い世代に守口の「まちの魅力」を広く伝える	・市プロモーション動画「赤ずきんと素敵なまち」を作成し、YouTubeにて配信。 ・イオンタウン守口内に守口市オリジナルデザインのデジタルサイネージを設置し、情報発信に活用。 ・デジタル教材守口市郷土学習「もりぐち学」を使用し、地域学習を実施。 ・市議会本会議場を活用し、本市にゆかりのある演奏家による議場コンサートを開催。 ・市内外の方が守口市を訪れる機会を創出し、歴史・文化・伝統を体感し、楽しみながら市の魅力を新発見・再発見してもらうため、謎解きイベントを実施。 ・市の歴史文化的資源として、旧徳永家住宅を取得し、保存・活用に向けた改修工事を実施。
基本目標 3 子育てファミリー世帯の守口定住を促す	・国の無償化対象外である0～2歳児までの課税世帯を含む完全無償化を継続して実施。 ・新たな保育の受け皿の確保・保育の質の向上。 ・病児・病後児保育を実施する施設の充実。 ・土居公園、大日公園、日吉公園、世木公園、菊水公園、八雲東公園の再整備。 ・たきい公園、よつば未来公園、南わくわく公園、大宮中央公園（旧さくら小学校跡地）の整備。
基本目標 4 良いイメージをもって守口に誇りを思う子どもを増やし、育てる	・市立学校全校において民間活力を活用した土曜日学習会を開催。 ・市費加配教員を各校に配置、学力向上推進担当教員中心に学力向上に取り組む。 ・すべての小学校にカウンセラーを派遣。 ・中学校区等に原則1名の学校司書を配置。 ・令和5年11月に「守口市公民連携博覧会」を実施し、小中学生にものづくり体験の機会を提供。

2. 第3期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて

(1) 計画期間

令和8年4月1日から令和13年3月31日まで（5年間）

(2) 守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

第2期戦略と同様に、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、市民の皆さんに住みよい環境を提供し、活力ある社会の維持を目指すことを目的に、令和8年度を始期とする市の最上位計画である第6次守口市総合基本計画後期基本計画の個別計画の一つとして位置づけるもの。

(3) 策定の方向性

第2期戦略の基本目標が達成できておらず、現時点においても第2期戦略策定時と同様の課題があることから、第2期戦略と同様の取組体系（案）とする。

課題

- ① 0～9歳の子どもを含むファミリー層の転出に歯止めをかけるために必要な施策は何か。

第2期戦略に定める基本理念・基本目標

【守口創生の基本理念】 子どもといきいき暮らせるまち・守口 子どもにとって良き思い出がふれるまち・守口	
基本目標1 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる	【取組の基本的方向】 ①若い世代がライフデザインを描くことを支援する ②若い世代の結婚・妊娠・出産を支援する ③若い世代の子育てを支援する
基本目標2 若い世代に守口の「まちの魅力」を広く伝える	【取組の基本的方向】 ①守口の「まちの魅力」を広く情報発信する ②若い世代が守口をふらっと訪れる機会を提供する ③若い世代が「住む」魅力を感じる環境を提供する
基本目標3 子育てファミリー世帯の守口定住を促す	【取組の基本的方向】 ①0歳からの充実した教育・保育サービスで安心の子育て・健やかな子育てを支援する ②暮らしと仕事とのバランスが取りやすい環境を提供する ③子どもとお出かけがしやすい環境を提供する
基本目標4 良いイメージをもって守口を誇りに思う子どもを増やし、育てる	【取組の基本的方向】 ①変化に対応できる確かな学力と他者を思いやる豊かな心を育む 学校教育を提供する ②子どもたちが熱中できることに会う機会を提供する ③子どもたちが社会の秩序を守り、社会や世界に貢献する意識を育む ④子どもから若い世代までが集い、仲間づくりがしやすい環境を提供する ⑤若い世代がより良い守口づくりに関われる機会を提供する

第3期戦略への記載を検討するテーマ例 ※これまでの創生委員会での主なご意見

- ①施策の幅広い情報発信に係る取組（確実な情報発信に係る仕組づくり）
- ②企業版ふるさと納税を活用した取組
- ③ものづくり企業の魅力発信及び人材確保を支援する取組